

27年4月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成27年 4月1日～ 27年4月10日

2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
4月分の回答企業数は6社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/4月	27/5月	27/6月
入荷動向	国産材	△ 30.0	△ 10.0	△ 10.0
	外材	△ 12.5	0.0	0.0
在庫動向	国産材	10.0	△ 10.0	0.0
	外材	25.0	16.7	0.0

・国産材ラミナの入荷は3ヵ月連続して減少、外材ラミナは4月の減少が5月及び6月は横ばい。

・国産材ラミナの在庫は4月の増加が、5月は減少、6月は横ばい、外材は4月及び5月の増加が6月は横ばい。

(2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	27/4月	27/5月	27/6月
国産材	0.0	0.0	0.0
欧州材	16.7	16.7	△ 16.7
その他	-	-	-

・国産材ラミナの入荷価格は横ばい、欧州材は4月及び5月のやや強保合が6月はやや弱保合。

モニターからのコメント

(ラミナ荷動き)

・スギは製品荷動き悪く入荷調整実施中、カラマツは岩手県産・北海道産共に入荷順調。スギ在庫は増加、カラマツは3月から入荷調整しているので在庫は横ばい。
・国産材は入荷を抑えている。外材は船積み遅れ分が集中する見込み。国産材、外材共に在庫調整中。
・外材は船の遅れあり、入荷減。
・2月、3月と市況低迷で自動的にラミナー入荷も数量をしばったため横ばい状態つづく。4月以降少し回復するも在庫調整のため横ばい。外材も同様。在庫は、3月決算期に向けて一気に増加したが、4月以降横ばい状態と思う。

(ラミナ価格動向)

・スギ、カラマツ共に、集成材製品価格は下落傾向にあるが、ラミナー価格は横ばい。
・国産材は変わらず、欧州材はフレート分上がる見込み。
・第1Qの入荷が始まれば、価格が下がってくる。特に為替によるもの。

27年4月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

(3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/4月	27/5月	27/6月
生産動向	国産材	0.0	20.0	10.0
	WW集成管柱	△ 50.0	△ 50.0	0.0
	RW集成平角	△ 50.0	0.0	16.7
	米マツ集成平角	△ 50.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	0.0	0.0	0.0
	WW集成管柱	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	RW集成平角	△ 50.0	△ 50.0	0.0
	米マツ集成平角	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	WW集成平角	—	—	—

・国産材集成材の生産は4月の横ばい、5月及び6月の増加、WW集成管柱は4月及び5月の減少が6月は横ばい、RW集成平角は4月の減少、5月の横ばい、6月の増加、米マツ集成平角は4月の減少が5月及び6月は横ばい。

・国産材集成材の出荷は3ヵ月連続して横ばい、WW集成管柱及び米マツ集成平角は3ヵ月連続して減少、RW集成平角は4月及び5月の減少、6月の横ばい。

(4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	27/4月	27/5月	27/6月
スギ集成管柱	△ 37.5	0.0	0.0
ヒノキ集成柱	△ 50.0	0.0	△ 50.0
ヒノキ集成土台	△ 50.0	0.0	0.0
カラマツ集成土台	0.0	0.0	0.0
WW集成管柱	△ 75.0	△ 75.0	△ 50.0
RW集成平角	△ 16.7	△ 16.7	0.0
米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
WW集成平角	—	—	—
米ヒバ土台角	△ 50.0	0.0	0.0
カラマツ集成平角	△ 50.0	0.0	0.0

・スギ及びヒノキ集成材の出荷価格は4月の弱含みが5月及び6月には総じて横ばいで推移、カラマツ集成土台は3ヵ月連続して横ばい。

・WW集成管柱及びRW集成平角は総じて弱含みで推移。米マツ集成平角は3ヵ月連続して横ばい。

・米ヒバ土台角及びカラマツ集成平角は4月の弱含みが5月及び6月は横ばい。

モニターからのコメント

(構造用集成材荷動き)

・3月より製品の荷動きは少し改善傾向だが未だ製品受注量は少なく、受注量に対応した生産量である。決算期(3月)による在庫調整の反動や被災地の動きもあり、若干荷動きは回復しているが総じて需要は低調。今後も著しい回復は見込めない。

・全て生産調整中、在庫は低水準で推移の見込み。

・顧客の購入マインド下落中、そのため生産調整。

・国産材構造材の市況悪く、大きな生産増は見込めない。特に柱の販売に苦戦。米ヒバの土台、柱とも苦戦のため生産も横ばい。出荷は、国産材は集成土台に力を注ぐ。米ヒバは樹種のアピールを行い、シェア拡大をねらう。出荷は今年やや増加するも大きな増加は見通しついでいない。

(構造用集成材出荷価格動向)

・スギは、需要低迷が長期化する中、販売先からの値下げ要求が強い。カラマツ土台は値下げを要求される。その他輸入材の弱含みで値下がりの可能性高い。

・全て下落傾向である。

・4月まで下落した。今後状況次第では、未だ下がる可能性有。

・市況は少しずつ上向きではあるものの、メーカー在庫量も多く残っており、多少値段下げてもボリュームを売る方が先決。GW明けからはどこも動きが戻ってくると思われ、取引価格も安定すると思う。